

岩泉町・龍泉洞の水

挑戦 新話

水と暮らす



工場最後の検査を受ける龍泉洞の水
(岩手県岩泉町の岩泉産業開発)

雪深い北上山地のふもとに広がる日本三大鍾乳洞の一つ、龍泉洞(岩手県岩泉町)。山々を降り注いだ雨や雪解け水は長い年月をかけ、広葉樹林の厚い腐葉土と石灰岩層を通って浄化され、洞内に広がる水深120

天然成分生かしヒット



岩泉町

の地底湖にむき出る。天然のミネラルとカルシウムを多く含む天然水は、町を代表する特

85年に作り始めた時は、さっぱり売れませんでした。龍泉洞の脇に建つ同町の第3セクター「岩泉産業開発」の製

国際食品オリンピックとして知られるベルギーのモンドセレブションで最高の「大金賞」に輝

人が生きていくために欠かせない「水」。生命の源として人々に愛をもたられ、水を守り、生かし、水とともに暮らす各地の取り組みを紹介す

産品として地元経済を潤している。「龍泉洞の水は今や、年間800万本を出荷する人気ミネラルウォーターに成長しましたが、19

わずかに開けた販路から次の勝ち、6億円以上を稼いだ。同社社長の三田地正人さん(61)は「岩泉に来た誰もが『おいしい』と口をそろえる自慢の水。ヒットすると信じています」。

「商品として」
①龍泉洞の水の生き残りのためにも、天然水をいかに龍泉洞の大自然を愛するに守り抜

ただ、当時は「水を賣つ」という考えは一般的ではなかった。佐藤さんは試供品を抱えて首都圏のデパートやスーパーに売り込みに回ったが、門前払いの日々が続いた。注文が少なかったため、当初は工場も月に数日しか稼働できなかった。それでも有名デパートの物産展に参加したり、都内で「龍泉洞の水」の利き水大会を開いたりするなか、PR活動を継続。

1人当たり年13リットル消費

ミネラルウォーターが日本に登場したのは明治時代中期。横浜や神戸の外国人居留地で売られた炭酸入り鉱泉水が始まりとされる。家庭向けには、1983年にハウス食品が「六甲のおいしい水」を発売して以来、少しずつ浸透してきた。

近年は、日々の暮らしの中で生活用水として気軽に使う人が増え、日本ミネラルウォーター協会(東京都新宿区)によると、2004年の国内生産量と輸入量の合計は約1億2千万6000リットル。10年前の約3倍に増えた。国民1人当たりの消費量は10年前の約3倍、年間約13リットルと増えたが、それでもフランスやイタリアと比較すると一割弱となっている。

地域に尽くす「新たな挑戦」の話を募集します。情報は〒100-8055読売新聞東京本社社地方部内信課へ。電子メールnaishin@yomiuri.com